彩の国
埼玉県

安全教育指導資料

埼玉県教育委員会

はじめに

子どもたちが安心・安全な学校環境の中で思い切り活動し、健やかに成長していくことを、誰もが願っています。

しかしながら、児童生徒を取り巻く状況は、必ずしも安心・安全が十分であるとは言えません。交通安全については、特に自転車乗車中の事故は、児童生徒の年間交通事故件数の半数を超える状況が続いており、一時停止と安全確認をはじめとする交通ルールの遵守等の安全行動の徹底が課題となっております。

また、生活安全に含まれる不審者被害については、地域ぐるみの学校安全体制整備により減少しておりますが、生命にかかわる危険はゼロにはなりません。

さらに、地震等の災害安全については、「災害に備える」意識と自助・共助の考えを生かした実践力が、児童生徒にも求められております。

このような中、国では、平成21年4月に学校保健安全法を施行し、学校安全計画に基づいた学校安全の充実を進めております。

また、埼玉県教育委員会では、平成21年度よりスタートした「生きる力と絆の埼玉教育プラン－埼玉県教育振興基本計画－」に基づき、児童生徒に危機対応能力の基礎を身に付けさせる安全教育の推進をはじめ、学校の危機管理体制並びに地域ぐるみの学校安全体制を整備する取組を進めているところです。

安全教育が果たす役割は、基本的な安全行動の実践力を培うとともに、危険予知や危険回避などの危機対応能力の育成であり、交通安全、生活安全、災害安全に関わる課題を解決するためには、「大人が子どもを守る」安全管理とともに、「子ども自身が自分を守る力」を高める安全教育の充実が大変重要であると考えております。

これらを踏まえ、本冊子では、安全教育を充実させ、学校安全に関する課題を解決するための取組を推進していただく上で参考となる資料等を整理し、指導事例も加えて、編集いたしました。

各学校におかれましては、児童生徒の危機対応能力を高めるとともに、事件・事故を防止し、安心・安全の確保を図る安全教育の推進と充実のため、本冊子を御活用くださるようお願いいたします。

平成２２年３月

埼玉県教育局県立学校部保健体育課長
田　村　和　夫

目　次

第１章　安全教育総論…… 1
　１　安全教育の目標 …… 1
　　（１）　学校安全の構造 …… 1
　　（２）　学校安全の領域 …… 2
　２　安全教育のとらえ方 …… 3
　３　安全教育の領域と構造 …… 3
　４　安全学習一覧 …… 4

第２章　安全指導～効果的な授業展開例…… 5
　１　危険予測トレーニングの方法 …… 5
　２　学習の効果をより高めるために …… 6
　　（１）　指導にあたって留意する事項 …… 6
　　（２）　家庭・地域・関係機関等との連携を図る…… 6
　第１節　交通安全…… 8
　　１　小学校 …… 8
　　（１）　低学年 …… 8
　　（２）　中学年 ……10
　　（３）　高学年 ……12
　　２　中学校 ……16
　　（１）　１・２年次 ……16
　　（２）　３年次 ……18
　　３　高等学校
　　（１）　１・２年次 ……20
　　（２）　３年次 ……22
　第２節　生活安全……24
　　１　小学校 ……24
　　（１）　低学年 ……24
　　（２）　高学年 ……26
　　２　中学校 ……28
　　３　高等学校 ……30
　第３節　災害安全……32
　　１　小学校 ……32
　　（１）　低学年 ……32
　　（２）　中学年 ……34
　　（３）　高学年 ……36
　　２　中学校 ……38
　　３　高等学校 ……40
　第４節　特別支援学校における安全教育 ……42

第３章　学校安全計画……44
　第１節　学校安全計画の作成……44
　　１　学校安全計画策定及び見直しの留意事項 ……44
　　（１）　記載する項目・内容について ……44
　　（２）　データの修正・改良等について ……44
　　（３）　見直しについて ……44
　　（４）　その他 ……44
　　２　学校安全計画作成例……45
　　（１）　小学校 ……46
　　（２）　中学校 ……47
　　（３）　高等学校 ……48
　　（４）　特別支援学校 ……49

付　録　資料・統計 ……50
　１　参考資料 ……50
　　（１）　平成２１年度通知一覧 ……50
　２　参考統計 ……51
　　（１）　不審者被害統計 ……51
　　（２）　殺人・爆破予告統計 ……52
　　（３）　交通事故統計 ……53

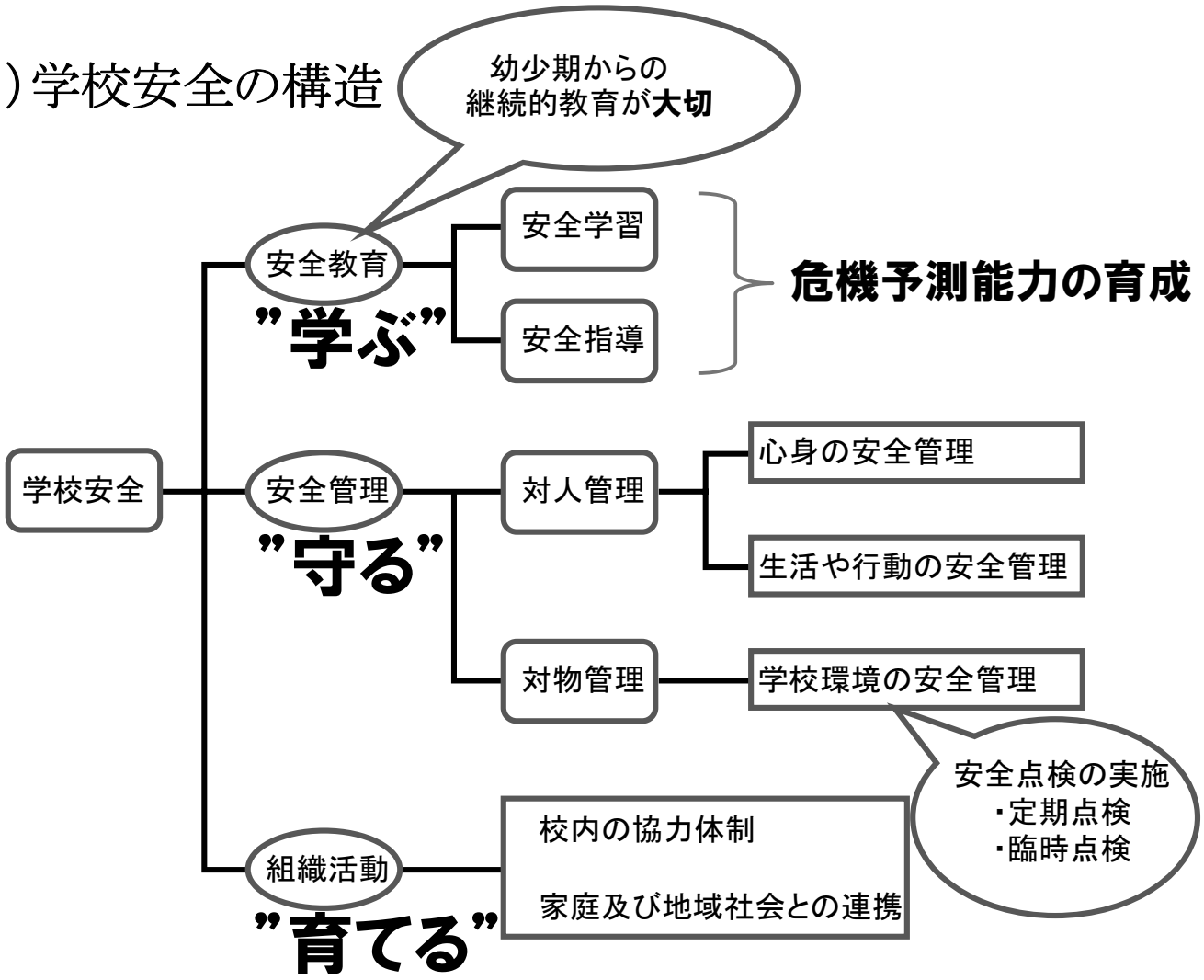
第１章　安全教育総論

１　安全教育の目標

安全教育の目標は、日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質や能力を養うことにある。具体的には次の３つの目標が挙げられる。

ア　安全に対する理解を深め、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができる。
イ　危険を予測し、安全な行動をとるとともに、自ら危険な環境を改善できる。
ウ　学校・家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・貢献できる。

(1)学校安全の構造



（２）　学校安全の領域

学校安全

生活安全

ア　施設・設備、器具・用具等の安全点検
イ　各教科、学校行事、クラブ活動・部活動、休憩時間その他における学校生活の安全のきまり・約束、安全確保のための方法等に関する事項
ウ　生活安全に関する意識や行動、事故災害の発生状況等の調査
エ　校内及び地域における誘拐・暴力等の犯罪防止対策及び緊急通報等の体制
オ　その他必要な事項

交通安全

ア　通学路の設定と安全点検
イ　通学に関する安全の決まり・約束等の設定
ウ　自転車、二輪車、自動車（定時制高校の場合）の使用に関するきまりの設定
エ　交通安全に関する意識や行動、交通事故の発生状況等の調査
オ　その他必要な事項

○　通学に関しては誘拐・暴力のような犯罪防止という生活安全の観点も考慮することとする。

災害安全

ア　防災のための組織づくり
イ　避難場所、避難経路の設定と点検・確保
ウ　防災設備の点検、防災情報の活用方法の設定
エ　防災に関する意識や行動、過去の災害発生状況等の調査
オ　その他必要な事項

○　災害安全では、自然災害以外の火災や原子力災害なども取り上げることとする。

２　安全教育のとらえ方

学校の安全を考える上では、安全教育と安全管理が必要であり、学校教育活動全体を通じて安全の教育活動を展開しなければならない。

学校教育活動の中での学校安全に関する活動は、各教科・道徳での安全に関する学習、特別活動、総合的な学習の時間、課外の指導など、様々な機会をとらえて行われなければならない。

安全教育は、安全学習と安全指導に分けることができ、安全学習については各教科で行われ、それぞれを総合させて安全に関する基礎的・基本的事項を系統的に理解し、思考力、判断力を高めることによって安全について適切な意思決定ができるようにする。また、安全指導とは安全学習によって得た知識等を日常生活の中で反映し、より実践的な能力や態度、さらには望ましい習慣の形成を目指して行うものである。

３　安全教育の領域と構造

- 安全教育
  - 安全学習
    - ○体育科の保健領域、保健体育科の「保健分野」「科目保健」
    - ○関連教科における安全に関する学習
    - ○「総合的な学習の時間」における安全に関する学習
    - ○自立活動における安全に関する学習
  - 安全指導
    - ○学級活動・ＨＲ活動における安全指導
    - ○学校行事等における安全指導
    - ○児童会・生徒会・クラブ活動における安全指導
    - ○学級（ＨＲ）等における個別の安全指導
    - ○部活動等の課外における安全指導
    - ○日常の生活における安全指導

安全に関する指導においては、学校安全の領域である「生活安全」「交通安全」「災害安全」を重視し、安全に関する知識を学び、情報を正しく判断し、自身の身を守れる自助の行動を基本において、周囲への気配りや援助が行える共助の行動を身に付けさせ、地域への貢献やボランティア活動を行うことができる協働の精神を行動に結びつけるようにすることが重要である。また、児童生徒が、心身の成長発達に関して適切に理解し、安全な行動をとることができるようにするための指導については、学校の教育活動全体を行う上で、指導や教育を展開する側の共通な理解を図り、家庭の理解と協力を得ることに配慮しながら、関連する教科、特別活動において、発達段階に応じて配慮することを忘れてはならない。

４　安全学習一覧（安全に関連する内容：各教科・道徳（小・中学校）、各学科に共通する各教科（高等学校））

※（数字：学年）　【生活：生活安全（防犯）　交通：交通安全　災害：災害安全（防災）】

	生活科　社会科	理　　科	図画工作科　美術科	家庭科　技術家庭科	体育科　保健体育科
小学校	**生活（１，２）【生活・交通】** ○　通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全に登下校できるようにする。 ○　（公共物や公共施設）安全に気をつけて正しく利用することができるようにする。 **社会（３，４）【生活・交通・災害】** ○　地域社会における災害及び事故の防止（災害防止：火災、風災害、地震、事故防止：交通事故、防犯） **社会（６）【交通・防犯・災害】** ○　国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。	**理科（５）【災害】** ○　雨の降り方によって、流れる水の速さや水の量が変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。 ○　雲の量や動きは、天気の変化と関係があること。 ○　天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。 **理科（６）【災害】** ○　土地は、火山の噴火や地震によって変化すること。	**図画工作【生活】** （内容の取扱い） ○　材料や用具 （１，２） ・　土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いることとし、児童がこれらに十分慣れることができるようにすること。 （３，４） ・　木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、のこぎり、金づちなどを用いることとし、児童がこれらを適切に扱うことができるようにすること。 （５，６） ・　針金、糸のこぎりなどを用いることとし、児童が表現方法に応じて活用できるようにすること。 ○（全学年を通して） ・　事故防止に留意すること。	**家庭（５，６）** **【生活・災害】** （内容の取扱い） ○　事故防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱うこと。	**体　育【生活】** （１，２） ○　…場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 ○　…水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。 （３，４） ○　…場や用具（器械・器具）の安全に気を付けたりできるようにする。 ○　…浮く・泳ぐ運動の心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。 （５，６） ○　…場や用具（器械・器具）の安全に気を配ったりすることができるようにする **体育・保健領域（５，６）** **【交通・生活】** ○　けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする（交通事故、けがの手当）
中学校	**社会　地理的分野【災害】** （自然環境） ○　国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。 （自然環境を中核とした考察） ○　地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。	**理科　第２分野【災害】** （火山と地震） ○　地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連づけてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解すること。 （自然の恵みと災害） ○　自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。	**美術【生活】** （内容の取扱い） ○　事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。	**技術・家庭【生活・災害】** （家庭分野） ○　安全と衛生に留意し食品や調理器具等の適切な管理ができること。 ○　家庭の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること。 **技術・家庭【生活・災害】（内容の取扱い）** ○　実習の指導に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。	**保健体育【生活】** （１，２） ○　健康・安全に気を配ることができるようにする。 ○　水泳の事故防止に関する心得など健康･安全に気を配ることができるようにする。 （３） ○　健康・安全を確保することができるようにする。 ○　水泳の事故防止に関する心得など健康･安全を確保できるようにする。 **保健体育・保健分野（２）【交通・防災】** ○　傷害の防止について理解を深めることができるようにする。（交通事故、自然災害）
高等学校	**社会　地理Ａ【災害】** （自然環境と防災） ○　我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる。	**地学基礎【災害】** （火山活動と地震） ○　火山活動と地震の発生の仕組みについて理解すること。 **地学【災害】** （地震と地殻変動） ○　プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて理解すること。	**美術【生活】** （内容の取扱い） ○　事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。	**家庭【生活・災害】** （内容の取扱い） ○　実験・実習を行うに当たっては、関連する法規等に従い、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。	**保健体育・保健【交通】** ○　交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などがかかわること。また、交通事故には責任や補償問題が生じること。

第２章　安全指導～効果的な授業展開例

危険予測トレーニングを取り入れた
安全指導のポイント

１　危険予測トレーニングの方法

○　５段階学習過程

導入	①問題の把握　課題を自分のこととして意識する。
展開	②場面分析　提示された問題場面について危険を予測する。 （状況の把握、潜在危険の発見、事故予測）
	③仮説設定　どうすれば危険を回避し、安全に過ごせるかを考える。
	④検　証　自分の考えた安全行動の適性を確かめる。
まとめ	⑤適　用　めあて（自己行動）を決めて実生活に活かす。

○　３段階での学習過程

※（発達段階を考慮した）**小学校低学年、中学年や、短時間の指導を行う場合**

【パターン①】

導　入	①問題の把握
展　開	②場面分析 （潜在危険の発見と事故予測を合わせた話し合い活動）
まとめ	③適　用　（発見した危険や事故予測からめあてを決定）

【パターン②】

導　入	①問題の把握
展　開	②仮説設定 （事故防止のための行動についての話し合い活動）
まとめ	③検　証（仮説の有効性についての根拠となる知識や事例）

【パターン③】

導　入	①問題の把握
展　開	②検　証（問題場面での事故防止の根拠となる知識や事例）
まとめ	③適　用　（事故事例等をもとにめあてを決定）

２　学習の効果をより高めるために

（１）　指導にあたって留意する事項

継続的・持続的指　導	○　児童生徒の「危険予知・危険回避」や周囲への配慮についての意識を定着させ、高めるために短時間の指導であっても、継続的に行う。
事前の活動（事前調査）	○　学級（児童生徒）の全体的な傾向、課題を浮き彫りにできるよう事前調査の内容・項目を検討する。 ○　交通事故を経験した児童生徒がいる場合には、内容・方法に十分配慮する。
問題場面の設定	○　自分たちの問題として意識させるため、生活基盤である校区の中からの場面設定が望ましい。 ○　設定した場所での過去の事故発生状況やその近隣の民家・商店等のプライバシーに対する配慮をする。
場面分析	○　潜在する危険を人的要因（人の行動や心理）と環境要因（標識や道路状況等）の両面から整理していく。 ○　小学校低学年では、目に見える標識や道路状況に注目させ、学年が上がるにしたがって、行動、心理と思考を広げていくようにする。
検　証	○　ゲストティーチャーの指導や事故データの提示などにより、知識に基づいた確かめができるようにする。
適　用 ・授業のまとめ	○　具体的な行動をめあてとし、自己評価や相互の評価がしやすいようにする。
・事後の活動	○　めあての掲示などにより安全行動への意識と実践の意欲を継続させる。 ○　取組の振り返り（評価）を行う。

（２）　家庭・地域・関係機関等との連携を図る

○　ゲストティーチャーの招聘

・　警察署員・交通指導員等、児童生徒の交通安全に関わっている方に依頼し、専門的な立場から助言・指導をいただく。

検証の段階（安全行動の適性を確かめる）での助言・指導

指導内容（例）　標識や規則などの知識や、停止の仕方、位置などの技能面での指導

○　授業公開

・　学校公開日、授業参観等で授業を実施し、交通安全について、保護者や地域の方々と共に考える場を設定するとともに意識を共有する。

第１節　交通安全

１　小学校

（１）低学年（小学校）

１　題　材　「どんなきけんがありますか」

２　ねらい　　・　交差点での一時停止と安全確認の大切さを理解し、実行する意欲と態度を身に付けさせる。

（１）展開例

時　間	学習内容・活動内容		指導上の留意点
事前指導	○　事前調査 ・　交通安全を考える意識の高揚	○　交差点での一時停止や安全確認の実行についての質問に答える。	○　調査項目は、事故の経験の有無に配慮する。 ○　標識にも触れておく。
はじめ 5分 ～ 10分	１　問題の把握 ・　信号のないＴ字交差点に近づいている。 ・　「止まれ」の標識がある。	○　問題場面について、どのような場所であるか状況等をつかむ。	○　児童が自分のこととして意識できるように補説する。（道路状況、標識など）
展　開 30分 ～ 35分	 ２　場面分析 ・　潜在危険の把握 ・　事故予測 ３　事故の発生、状況についての知識	○　あぶないと思うところや、どのような事故が起こるか予測したことについて話し合う。 ○　問題場面のような所で起こる事故について話を聞く。	【予想される児童の考え】 ○　右、左の道の様子がよくわからない。 ○　自動車や自転車が左（右）から急に出てきてぶつかる。 ○　（自分が）急いで走っているので、止まらずにそのまま左に曲がっていく ○　潜在危険と事故予測を整理して板書等にまとめる。 ○　仮説が出た場合には、意見として認めていく。 ○　児童の場面分析と関連させ、道路標識を守ることや安全確認の大切さについて話す。 ○　交通指導員等に依頼することも考慮する。
まとめ 5分	４　適用 （めあての自己決定）	○　話し合ったことをもとにして、自分の交通安全のめあてを考え、ワークシートに書く。	○　具体的な行動をめあてとするよう助言する。
事後指導	○　めあて実行の評価	○　めあてを実行し、自分の生活を振り返る。	○　めあての掲示等により、意欲を高める。

（2）ワークシート

どんなきけんがありますか。（こうつうあんぜん）

おともだちの家に
あそびにいくとちゅうです。

「あぶない」とおもうところや、
「もしかしたら、こんなことがおこるかもしれない」
と　おもったことは　どんなことですか。

★こうつうじこにあわないために　じぶんがすることを書きましょう。

2　中学年（小学校）

1　題　材　「事故を起こさないためには」

2　ねらい　・　正しい自転車利用のために必要なことを知り、危険を予知したり、周りの様子に気をつけて運転したりする意識と態度を身に付けさせる。

（1）展開例

時　間	学習内容・活動内容		指導上の留意点
事前指導	○　事前調査 ・　交通安全を考える意識の高揚	○　自転車利用時のヒヤリ体験についての質問に答える。	○　調査項目は、事故の経験の有無に配慮する。
はじめ 5分 ～ 10分	1　問題の把握 ・　信号のない交差点に近づいている。 ・　道路横断したい。	○　自転車利用時のヒヤリ体験を想起する。 ○　問題場面について、どのような場所であるかをつかむ。	○　児童が自分のこととして意識できるように補説する。（道路状況、急ぐ気持ち　など） 【予想される児童の考え】 ○　右から人や自転車が出てくる。 ○　横断歩道で人が待っている。 ○　通過した自動車のすぐ後から別な自動車が来る。 ○　右から自動車が来る。 ○　自分の左側に車がいる。 ○　人や自転車とぶつかってしまう。
展　開 30分 ～ 35分	2　場面分析 ・　潜在危険の把握と事故予測 3　仮説設定 ・　安全行動 4　検証 ・　事故の発生、状況についての知識	○　問題場面に潜む危険や起こり得る事故を考える。 ○　どうすれば危険を回避できるか考える。 ○　問題場面のような所で起こる事故について話を聞く。 ○　自分の仮説が有効であるかを確かめる。	○　潜在危険と事故予測を整理して板書等にまとめる。 ○　場面分析と関連させて板書等をしていく。 ○　一時停止、安全確認の行動と気持ちの関わりや周囲の状況を知ることの大切さを知らせる。 ○　交通指導員等に依頼することも考慮する。
まとめ 5分	5　適用 （めあての自己決定）	○　本時の学習をもとにして、自転車利用時の交通安全のめあてを考え、ワークシートに書く。	○　具体的な行動をめあてとするよう助言する。
事後指導	○　めあて実行の評価	○　めあてを実行し、自分の生活を振り返る。	○　めあての掲示等により、意欲を高める。

（2）ワークシート

事故を起こさないためには。（こうつうあんぜん）

◆買い物に出かけて　家に帰る　と中です。

まわりのようす

☆　信号は？

☆　人はいる？車は？

☆　『止まれ』のひょうしきは？

●　『もしかして…こんなあぶないことが起きるかも…』と思うことは何ですか。

●　どんな事故が起きるでしょうか。

○　どうすれば事故を起こさないで横断できるでしょうか。

★　自転車に乗る時　気をつけて実行しようと考えたことを書きましょう。

（３）　高学年（小学校）

ねらい	○　命の大切さ・相手や周囲の人の思いに触れ、常に危険を読みながら自転車を運転しようとする意欲を高められるようにする。 ○　一時停止・左右の安全確認をしっかりできるようにする。 ○　潜在的な危険を読み、自転車の安全な運転ができるようにする。
事前の活動	○　事前調査の実施－学級児童全員 ○　事前調査の結果の読み取り

段階	学習内容・活動内容	指導上の留意事項	資料
問題の把握	○問題を把握する。 １．事前調査の結果から感じたことを発表する。 ２．問題場面を知る。	・事前調査の結果から、意識のちがい・危険の感じ方のちがいに目を向けられるようにする。 ・調査結果は事前に配布するとともに、大きな表にまとめ掲示しておく。 ・場面についての補説を行う。	調査結果表 写真資料
場面分析	ゆうじさんは、どのような事故にあってしまうでしょうか。 ○　場面分析をする。 ３．問題場面に潜む危険を読み取る。	・３分程度の時間とし、短時間で危険ポイントを見つけていくようにする。 ・ブレインストーミング的に多くの危険要素を導き出す。	ワークシート

場面分析		・児童の思考の流れからすると、危険因子と事故とを一連にして考えるケースも多いと思われる。この段階で事故の可能性に言及する発言もあると考えられるが、柔軟に扱っていくようにする。 ・人的要因と環境要因とに分類して提示する。	
	〈人的要因〉 ゆうじさん ・急いでいる　・一時停止せず進もうとしている ・かた手運転をしていいる ・前をよく見ていない ・別のことを考えている　など	〈環境要因〉 ・左側が見えない ・右側が見えない ・カーブミラーがない ・公園がすぐ近くにある ・止まれのひょうじがある　など	
	４．起きる可能性のある事故を考える。	・個人→グループ→全体という話し合い活動を持つ。 ・自分が加害者になるという事故予測は難しい個人の思考段階やグループでの話し合い段階に関わり、見えないところから出てくるものが自動車とは限らないという視点に気付くよう支援していく。 ・複合してさらに大きな事故につながる可能性もあること、全ての事故がすでに起きているということを考えていけるよう補助発問を行う。 ・左側から来る自動車との接触 ・左側から来る自転車や歩行者との接触 ・右側から来る自動車との接触 ・右側から来る自転車や歩行者との接触 ・後方から来る自動車との接触 ・バランスを崩しての転倒　など	
	どうすれば事故を防ぐことができるでしょうか。		
仮説設定	○　仮説設定をする。 ５．事故を防ぐ行動を考える。	必ず一時停止する　必ず左右を確認する 急がないで運転する（早めの行動） 片手運転をしない 前をしっかり確認する 見えないところに注意する　など	ワークシート
検証	○　仮説を検証する。 ６．安全行動の大切さを確かめる。	・環境要因を評価して安全を生み出すものが自分(たち）の行動であることを振り返りながら、５で考えた方法の的確さを確かめる。 ・事故にあってしまっら家族・友達はどんな思いをするか想像できるようにする。	
適用	○ ７．正しい運転のめあてを決める。	・具体的な行動目標を立てられるよう支援する。 ・事後の計画について伝える。	めあて記入用短冊
事後の活動	○めあてを常掲し、取り組みを振り返る。		

ワ　ー　ク　シ　ー　ト

学級活動『正しくのって安全に！－自転車の のり方を見つめ直そう－』学習プリント　５年　　組　　名　前

ゆうじさんは、どのような事故にあってしまうでしょうか。

危険（きけん）ポイントを見つけよう

＊記入の仕方：写真上に〇をつけ、そこから線を引いて どんな危険かを書きこみましょう

例）

〇〇が見えない

どのような事故が起きるかな！？

●
●
●
●

どうすれば事故をふせぐことができるでしょうか。
（事故をふせぐ安全なのり方）

今日の学習でわかったこと、はじめて知ったこと、思ったことなどを　まとめましょう。

めあての実行！がんばろう！！